

指揮者：松川 智哉（第1クール）



©Shigeto IMURA

東京藝術大学音楽学部指揮科卒業、同大学院音楽研究科指揮専攻修士課程修了。2019～2021年東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団指揮研究員。2022～2024年セントラル愛知交響楽団アソシエイトコンダクター。これまで、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、藝大フィルハーモニア管弦楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、富士山静岡交響楽団、セントラル愛知交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、日本センチュリー交響楽団他と共演。現在オーケストラやオペラなどで幅広く活動している。愛知県立芸術大学非常勤講師。

指揮者：丸田 隼輝（第2クール）



第2回OCCO国際指揮コンクール優勝。ウィーン・ディヒラー国際指揮コンクール準優勝。2024年、日本製鉄文化財団・若手指揮者育成支援制度のオーディションに合格。紀尾井室内管、読響、東フィル、シティ・フィルで研鑽を積む。2025年、ロームミュージックファンデーション音楽セミナーのオーディションに合格。山田和樹氏の指導のもとバーミンガム市交響楽団を指揮。2026年、神奈川フィルハーモニー管弦楽団副指揮者に就任。

指揮者：阿部 未来（第3クール）

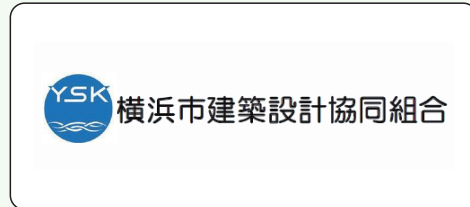
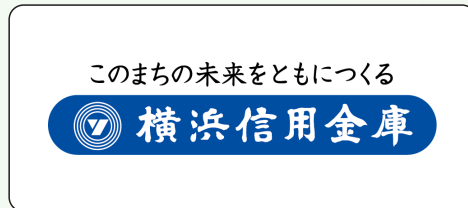
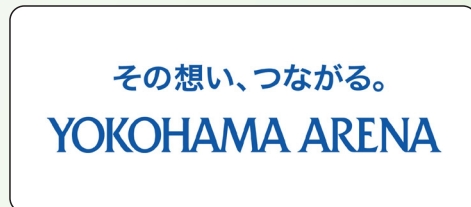
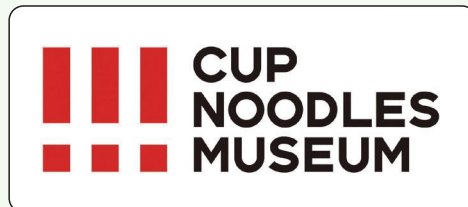


©RINZO

東京音楽大学器楽専攻（ピアノ）卒業、同大学大学院科目等履修生作曲・指揮専攻（指揮）修了。指揮を広上淳一、船橋洋介、三河正典、時任康文の各氏に師事。また、飯森範親氏の薫陶を受ける。ロータリー財団国際親善奨学生としてドイツ、ドレスデンに留学。神奈川フィル副指揮者、セントラル愛知交響楽団アソシエイトコンダクターを歴任。2020年度山田貞夫音楽財団山田貞夫音楽賞並びに特選受賞。名古屋音楽大学非常勤講師。

協賛企業

心の教育ふれあいコンサートは、次の方々に御協賛いただいております。



心の教育 ふれあい コンサート

日程 第1クール 9月8日(火)、9日(水)、10日(木)、11日(金)
第2クール 9月15日(火)、16日(水)、17日(木)
第3クール 10月14日(水)、15日(木)、16日(金)

会場 横浜みなとみらいホール 大ホール

時間 第1回公演（午前の部） 10：30から
第2回公演（午後の部） 13：30から

指揮 松川 智哉（第1クール）、丸田 隼輝（第2クール）、阿部 未来（第3クール）

演奏 管弦楽／神奈川フィルハーモニー管弦楽団
パイプオルガン／近藤 岳（第1クール）、斎藤 茉奈（第2.3クール）

司会 岩崎 里衣

主催 横浜市教育委員会

共催 横浜みなとみらいホール（公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団）

■神奈川フィルハーモニー管弦楽団

1970年に神奈川県を本拠地とする唯一のプロ・オーケストラとして発足。地域に密着した音楽文化の創造をミッションとして、神奈川県全域をはじめ、全国各地で幅広い活動を続けている。1978年に一般財団法人、2014年には公益財団法人として認定されている。
横浜・川崎を中心とする定期演奏会や特別演奏会、県内各地を回る巡回公演などの主催公演を開催。音楽教育にも積極的で、小中学校での音楽鑑賞教室を全国各地で開催し、広い世代に音楽の魅力を伝え、また医療機関や特別支援学校への出張演奏も行っている。1989年神奈川文化賞、2007年NHK地域放送文化賞、横浜文化賞、2022年地域文化功労者表彰をそれぞれ受賞。2020年には創団50周年を迎え、現在、指揮者陣には、音楽監督に沼尻竜典、名誉指揮者に現田茂夫、特別客演指揮者に小泉和裕を擁し、人気・実力ともに益々注目されているオーケストラである。



撮影：藤本史昭

プログラム

- 交響詩「ツアラトゥストラはかく語りき」より 冒頭 …………… R. シュトラウス
- ポルカ「雷鳴と稲妻」 …………… J. シュトラウスⅡ世
- 「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」 K.525 より 第1楽章 …………… W. A. モーツァルト
- バレエ「くるみ割り人形」より 花のワルツ…………… P. チャイコフスキー
- 小フーガ ト短調 BWV578 …………… J. S. バッハ
- ハンガリー舞曲 第5番 …………… J. ブラームス
- 行進曲「威風堂々」第1番 …………… E. エルガー

♪ 交響詩「ツアラトゥストラはかく語りき」より 冒頭 R. シュトラウス

リヒャルト・シュトラウス（ドイツ 1864～1949）は、ヨーロッパで最も有名な作曲家の一人です。華麗な響きの交響詩やオペラなどの作品が特に有名です。この曲は、物語や情景などをオーケストラによって表現する交響詩と呼ばれるものの一つで、哲学者・ニーチェの作品が元になっています。全曲を演奏すると30分以上かかりますが、今日演奏される冒頭部分は、映画等を通じて聴いたことがあるのではないのでしょうか。大編成のオーケストラとオルガンの壮大な響きが、みなさんを包みこんでくれることでしょう。

♪ ポルカ「雷鳴と稲妻」 J. シュトラウスⅡ世

ヨハン・シュトラウスⅡ世（オーストリア 1825～1899）は、多くのポルカ（速い2拍子系の踊りのリズム）を作曲していますが、その中でもこの曲は大変有名です。打楽器が活躍する「雷鳴と稲妻」は大太鼓で雷鳴を、シンバルで稲妻を表しています。3つの部分でできていますが、中間の部分では雷鳴と稲妻が交互に激しく鳴り響きます。

♪ 「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」 K.525 より 第1楽章 W. A. モーツァルト

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト（オーストリア 1756～1791）は、35年という短い生涯の間に600曲に及ぶ作品を残しています。この曲は特に有名で、親しみやすい旋律と、軽やかかつ生き生きとした美しさで、多くの人々から愛されています。「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」とは「小夜曲」（セレナーデ）とも訳される、弦楽器のための楽曲です。4つの楽章とも、魅力的で活気に満ちあふれています。今日は第1楽章のみの演奏ですが、ぜひ全曲を通して聴いてほしい作品です。

♪ バレエ「くるみ割り人形」より 花のワルツ P. チャイコフスキー

ピョートル・チャイコフスキー（ロシア 1840～1893）は、有名なバレエ音楽「白鳥の湖」や「眠れる森の美女」を作曲していますが、今回は同じバレエ音楽の「くるみ割り人形」から「花のワルツ」を鑑賞します。くるみ割り人形とは、人形の形をしたクルミをしたクルミを割る道具のことです。クリスマスの夜、主人公のクララが、ネズミと戦って負けそうになったくるみ割り人形を助けると、人形は王子に変身し、お菓子の国へ誘ってくれます。この曲は、コンペイトウの精の侍女24名が、華やかな踊りを披露する場面で、ハープが効果的に用いられたり、美しい旋律が様々な楽器に受けわたされたりしながら曲が進みます。



♪ 小フーガ ト短調 BWV578 J. S. バッハ

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ（ドイツ 1685～1750）は、生涯に200曲以上のオルガン作品を残しました。この曲は、みなさんもどこかで聴いたことがあるのではないのでしょうか。フーガは、始めに示された旋律が、複数の声部に次々に現れるという特徴があります。今日は、パイプオルガンの豊かな響きとともに、次々に旋律が重なっていくおもしろさ、美しさを感じ取りましょう。

♪ ハンガリー舞曲 第5番 J. ブラームス

ヨハネス・ブラームス（ドイツ 1833～1897）は、演奏旅行中に耳にしたハンガリーのロマの民族音楽を楽譜に書き留め、21曲の舞曲集をつくりあげました。もともとハンガリー舞曲はピアノ連弾（1台のピアノを2人で弾く）曲でしたが、後にさまざまな音楽家によってオーケストラに編曲されています。曲中の速度のゆれや急激な速度の変化、調の変化などが起こす効果を味わってみましょう。

♪ 行進曲「威風堂々」第1番 E. エルガー

エドワード・エルガー（イギリス 1857～1934）の代表作の一つです。「威風堂々」とは、光を放つようなおごそかで堂々としている様子を指します。この曲をロンドンで初めて演奏したとき、会場は、大きく響き渡る拍手でいっぱいになり、熱狂する人々のために3回も繰返し演奏したそうです。

この曲を聴いたイギリス国王エドワード7世も大変気に入り、親しみやすいメロディーに歌詞をつけることをすすめました。それが「希望と栄光の国」という曲に編曲され、今でもイギリス第2の国歌と呼ばれるくらいに人々に愛され歌われています。

出演者プロフィール



©藤本史昭

■ パイプオルガン：近藤 岳（第1クール）

東京藝術大学音楽学部作曲科卒業。同大学別科オルガン科修了。同大学大学院修士課程音楽研究科（オルガン）修了。2006年文化庁新進芸術家海外研修員としてフランス（パリ）に留学。国内外でのオルガンリサイタルに加え、アンサンブルや国内主要オーケストラとの共演、他ジャンルのアーティストとのコラボレーションなど、活躍の場は多岐に渡っている。2004年7月ミューザ川崎シンフォニーホールのオープン当初から18年3月末までホールオルガニストを務めた。2020年刊行のオルガン教則本『オルガン奏法パイプでしゃべろう！パイプで歌おう！』（道和書院）の編著者を務め、各方面から高い評価を得ている。現在、横浜みなとみらいホールホールオルガニスト。東京藝術大学（オルガン）、および国立音楽大学（作曲理論）非常勤講師。一社）日本オルガニスト協会会員。



© Ayane Shindo

■ パイプオルガン：斎藤 茉奈（第2.3クール）

武蔵野音楽大学ピアノ専攻卒業。武蔵野音楽大学大学院ピアノ専攻、及び同大学院ヴィルトゥオーソコースオルガン専攻修了。令和6、7年度水戸芸術館パイプオルガン・プロムナード・コンサート、第53回日本オルガニスト協会新人演奏会に出演。在学中、武蔵野音楽大学管弦楽団とサン＝サーンス交響曲第3番「オルガン付き」で共演。武蔵野音楽大学選抜学生によるコンサートに出演。第22回「万里の長城杯」国際音楽コンクール一般の部Aピアノ部門第一位並びに審査委員長賞。第27回彩の国・埼玉ピアノコンクールF部門入賞。平成28、29、令和6、7年度福井直秋記念給付奨学金奨学生。これまでにオルガンを石丸由佳、近藤岳、ピアノを黒田佳奈子、田代愼之介、チェンバロを西山まりえの各氏に師事。現在、横浜みなとみらいホール ホールオルガニスト・インターンシップ・プログラム22期生。